

偲ぶ



「偲ぶ」というところは、人間だけにそなわった尊いところだと思えます。ある日、九十歳になるおばあさんの訃報の電話がありました。直葬にして既に日時も決めているとのことでした。これまでの人生で出遇った身近な人々と「偲ぶ」という「時」も「場」も持つことの無いのちのお別れがなされています。

また、ある日、おばさんが介護老人保健施設に入居され、永年住みなれた我家に帰れなくなり、お仏壇の仏さまに朝夕のお参りが出来なくなったので、居室に仏さまをお迎えしたいとの相談がありました。ご主人が亡くなられて三十七年の月日が過ぎ、一人暮らして毎回ご主人を「偲ぶ」日々を過ごしておられました。百歳を超えてお元氣でしたが、骨折を期に施設に入居されたので施設の了解を得て阿弥陀仏の御本尊をお掛けし、居室にて朝夕のお参りができるようにになりました。

「偲ぶ」というところを通して「さずかっていたいのち」をよろこび「生かされて生きていくのち」に感謝する尊いところを大切にしたいものです。

偲ぶ



「偲ぶ」というところは、人間だけにそなわった尊いところだと思えます。ある日、九十歳になるおばあさんの訃報の電話がありました。直葬にして既に日時も決めているとのことでした。これまでの人生で出遇った身近な人々と「偲ぶ」という「時」も「場」も持つことの無いのちのお別れがなされています。

また、ある日、おばさんが介護老人保健施設に入居され、永年住みなれた我家に帰れなくなり、お仏壇の仏さまに朝夕のお参りが出来なくなったので、居室に仏さまをお迎えしたいとの相談がありました。ご主人が亡くなられて三十七年の月日が過ぎ、一人暮らして毎回ご主人を「偲ぶ」日々を過ごしておられました。百歳を超えてお元氣でしたが、骨折を期に施設に入居されたので施設の了解を得て阿弥陀仏の御本尊をお掛けし、居室にて朝夕のお参りができるようにになりました。

「偲ぶ」というところを通して「さずかっていたいのち」をよろこび「生かされて生きていくのち」に感謝する尊いところを大切にしたいものです。